

# 飯豊山地における高山蛾の生態的知見

草刈広一

(〒999-1201 山形県西置賜郡小国町沼沢 185)

飯豊山地のうち、福島県側の高山蛾については飯塚・斎藤（2001）が切合小屋，飯豊本山付近，御西小屋で夜間採集を行い，6種を記録している。筆者は御西岳東の草月平（1960m）において，2015年8月19-20日の二日間の日中，3種の蛾類の訪花行動を観察し，このうちアルプスギンウワバについては産卵行動も目撃したので報告する。なお本地域は磐梯朝日国立公園の特別保護地区であるため，捕獲は同定のための一部に限定している（平成26年7月11日付 環東地国許第1407114号許可）。

アルプスギンウワバ *Syngrapha ottolengui nyiwonis* Matsumura

飯塚・斎藤（2001）は切合小屋で記録している。草月平ではタカネマツムシソウに度々訪花する個体が観察され（図1），ミヤマアキノキリンソウへの訪花も確認された（図2）。井上・ほか（1982）では本種の食草をヨーロッパの近縁種の例からクロマメノキと推定し，その後，日本でも確認されたようであるが，草月平ではガンコウランの絨毯の中に生育するコケモモに産卵した（図3）。

図1



図2



図3



ホッキョクモンヤガ *Agrotis ruta* Eversmann

本州では日本アルプスのほか、飯豊・朝日山地、鳥海山などの東北日本海側山地に分布する。飯塚・斎藤（2001）は切合小屋と本山周辺で記録している。本種もタカネマツムシソウに訪花する♂を数回目撃している（図4、5）ほか、♀も同花上で捕獲した。

図4



図5



コキマエヤガ *Ochroleura triangularis* Moore

本種は高山蛾ではないが、斎藤（2015）によれば福島県ではこれまで記録がなかった。越夏休眠を行い、盛夏には高山帯の石下などに潜んでいることが観察されており移動性があるものと推定されている（井上・ほか,1982）。本種もタカネマツムシソウへの訪花が確

認された（写真撮影はできず，捕獲して同定を行った）。ヒョウモンチョウの仲間のように，高山に移動してきたものは休眠せず活動を続けるものと推察できる。

#### 引用文献

- 飯塚新真・斎藤修司（2001） 飯豊山高山帯における蛾類分布調査 ふくしまの虫 20:1-4.  
井上 寛・ほか（1982）日本産蛾類大図鑑 講談社  
斎藤修司（2015）福島県における蛾類の記録（文献記録をまとめた暫定目録）